

第二十二回フオト旬会優秀作品(24年9月10日)

<自由題>



代表が一番ビックリ

この熱気 上山 裕次
寸評：ウン十万人がパレードに集まりました。こんな近くで写真を撮れた作者の幸運と根性に拍手を送ります。

愛あれば添い寝をしても

痒くない 中村 晃也

寸評：夏になると山茶花や椿に発生する茶毒蛾。鱗粉に触れると猛烈に痒い。こんな近くで写真を撮った作者の勇気に脱帽。



お伊勢さん若き主待つ

力車群 安藤 晃二

寸評：伊勢神宮の参道は車の乗り入れ禁止。道端に駐車してある乳母車を人力車に見立てた。

あの日から街案内に

欠かせない 大月 和彦

寸評：時宜を得た作品です。東京近辺では見当たりませんが。





この暑さ吹奏楽団

皆ダウン 矢澤 正二

寸評：エンゼルトランペット
という花です。ダラリと下向き
に咲いている風景。

熊野古道出発前に

法螺を吹く 安藤 晃二

寸評：山伏の正装でそろって法螺貝
を吹いています。朝からホラを吹くの
は政治家ですが・・・。



<句 付 け>

7月の御題写真



みんな無視これがイジメの第一歩 上山 裕次

さりげなく魅力の背中撮りにけり 安藤 晃二

下痢止めを秘そかに飲んで餌ねだる 中村 晃也

<寸 評>今月の写真は三春さん出題の、近景では猿が何かを食べていて、遠景は上半身裸の男を中心に数人の人間が寄り集まっている、はなはだ焦点のはっきりしない風景です。この写真は見る人によって以下のように解釈が全く違います。

上山さん：近景の猿は誰からも相手にされないで、いじけている。これが最近トミに多いイジメの初期症状だという見解。

安藤さん：写真の撮影者は女性だから、近景の猿の存在は全く無視して、遠景の男の裸の背中からお尻に焦点を当てて撮影したという見方。

中村さん：猿が手に持っている赤い玉は下痢止めであると。これを飲んでから人間共に近づいて餌をもらおうという、猿の衛生観念を強調した作品であるとの解釈。果たして正解は？